

合計	9	7	7	6	7	7	4	1	2	4	1	5		3	1	2	1	1	1	1	2	1			73
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	----

金属鉱業における年齢別労働災害発生状況（1999-2022年）

年齢	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
19歳以下																									
20歳-29歳			1				1			1															3
30歳-39歳	4	1	2	1	1	1						1									1				12
40歳-49歳	1	1	1	2	1	4	3			2				2		2	1		1						21
50歳-59歳	4	4	2	3	3	2		1	1		1	3		1	1			1				1			28
60歳以上		1	1		2				1	1		1								1		1			9
合計	9	7	7	6	7	7	4	1	2	4	1	5		3	1	2	1	1	1	1	2	1			73

年	月	生時	死亡災害事例	起因物 (小)	事故の型	者規模
2004	10	11 ～ 12	一人で、排水槽の浚渫作業のため中に入りストレーナー（ろ過器）の泥を取り除く作業をしていたところ、槽内にある仕切り壁（高さ2m）を乗り越えてきた泥に埋まった。	その他の環境等	おぼれ	100～ 299
2000	10	22 ～ 23	鉱山の坑道内において掘削のための積込・穿孔・発破作業中、崩れた岩塊(重量約1.3t)の下敷になった。	地山、岩石	崩壊・倒壊	100～ 299
2000	9	11 ～ 12	鉱山の保安係員が坑内巡視中に行方不明となり、0M坑3号旧採掘場11番漏斗付近で発見された。(20～30M間の人道切上付近で0M坑まで墜落したものと推定される。)	はしご等	墜落・転落	10～ 29
2000	6	15 ～ 16	坑内冷却のためのファンなどの設置用坑道の補修作業が完了したことを確認するため、現場巡視に出かけ、熱中症で死亡した。	高温・低温環境	高温・低温物との接触	100～ 299

2021年、2020年の事例は新型コロナ罹患を含む。2011年の事例は東日本大震災による労働災害を含まない。

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202306_01.htmlに戻る。